

「石はしている」(EK#6)

ローマ・ガンズ／文 ホリー・ケラー／絵
神鳥 統夫／訳 リブリオ出版



地球はかたい岩石でおおわれている。火成岩に
たいせきがん
堆積岩、それから変成岩。岩の成り立ちはそれ
ぞれ違うけど、どれも何百万年もの長い年月をかけてつくられた。
だから、石を調べると地球の歴史が見えてくる。きみも石を集めて
みようよ。

「地球たんけんたい」のシリーズは、全6巻あります。

「どうして博物館に隕石が展示されたの!？」(EL#)

ジェシー・ハートランド／さく 志多田 静／やく 六耀社



木星と火星の間から落ちてきた隕石が庭にとめて
あった車にしようかつした。宇宙を飛びかっている「ちり」のひとつが、流星となって地球に降っ
てきたんだ。はるか宇宙のかなたから1年に
500個もの隕石が地球に落ちてくるんだって。



「子どものときに読みたい本100冊」(さやまの100冊)は
狭山市の教育委員会が おすすめしている本です。図書館では
このマークが目じるしです。ぜひ、読んでみてね。

図書館のホームページから、読みたい本の予約ができます。
休館日や開館時間、イベント等の最新情報も こちらから
ご確認ください。

狭山市立中央図書館 ☎ 04-2954-4646
狭山市立狭山台図書館 ☎ 04-2958-3801
狭山市公式HP <https://www.city.sayama.saitama.jp/>



よむぞうタイムズ 85号

5年生 6年生

狭山市立図書館 2022.12.15発行

学校からの帰り道、なにげなくけた石。それは、地球のかけらな
んだ。マグマが冷えたり海の底でおし固められたりと

長い時を経て、今きみの足元にある。

大昔から人間は石で道具や飾りを作り、家を建ててきた。

今回はそんな「石」をテーマに本を紹介するね。



「海辺の宝もの」(JS7)

ヘレン・ブッシュ／著 鳥見 真生／訳 佐竹 美保／画 あすなる書房



19世紀初め、貧しい家庭に育ったメアリーは海辺
で集めた「変わり石」を売って家計を助けていた。
「変わり石」とは生物の化石のことだが、当時まだ
「化石」の存在を知る人はほとんどいなかった。そ
んなある日、メアリーは店を訪れた科学者に化石の
収集を依頼された。化石探しに生涯をささげた少女
の世紀の大発見の物語。

「石の卵」(J458ヤ)

山田 英春／文・写真 福音館書店

生物の死がいや泥など、様々な成分がくっついて海の底
でうまれた石を「ドラゴンの卵」と言う。一方、火山の
ふん火により、溶岩がガスの泡や鉱物を閉じ込めてでき
た石は「サンダーエッグ」と呼ばれている。なぜこんな名前がついたの
か、割ってみると一目りょう然。竜の牙?それとも光る稲妻?外見からは
想像できないほどきれいな模様が現れる。



「肥後の石工」(JM1)

今西 祐行/作 岩波書店



江戸時代、肥後の国にみごとな橋や石垣をつくる石工職人たちがいた。ある時、薩摩のお城に橋を架けたが、工事が終わると秘密を守るために次々と殺されてしまった。ひとり生き残った石工頭の三五郎は、後ろめたさを抱えながらも橋を架ける情熱を失わなかった。アーチ形の美しい石橋を後世に残した名職人、岩永三五郎の話。

「西遊記」上 悟空誕生の巻 (JKG1)

呉 承恩/作 渡辺 仙州/編訳
佐竹 美保/絵 偕成社

かかさん

花果山の山頂で一匹の猿が石から生まれ出た。石猿は仙人に弟子入りして「孫悟空」という名前をもらい修行を積むが、約束を違えて破門されてしまった。地上に戻った悟空は、やりたい放題。水晶宮で如意棒を手に入れて、とうとう天界で神さま相手に大あばれ!



続きの「西遊記」中 破邪遍歴の巻 (JKG2) ・「西遊記」下 西天取経の巻 (JKG3) も読んでみてね。

「樹のことばと石の封印」(JPT)

富安 陽子/著 大庭 賢哉/絵 偕成社

人間のパパとキツネのママの血を引く信田家の子どもたち。両親の留守中に訪ねてきた友だちが、あかすのひきだしにすいこまれてしまった。ひきだしの中はなんと深い林で、そこに石に変えられた友だちがいた。友だちを助けようと、信田家の三兄弟が大活躍。



この巻は「シノダ!」シリーズの2巻目です。シリーズは全11巻あります。

「おばあちゃんは大どろぼう?!」(JSウ)

デイヴィッド・ウォリアムズ/作
三辺 律子/訳 きたむら さとし/絵 小学館



ベンは毎週金曜日の夜、おばあちゃんの家泊まりに行く。おばあちゃんって超たいくつ。食事に出される料理もきらいなものばかりだし。ある晩、こっそり食べようとしたクッキー缶を開けてビックリ!中にはダイヤモンドがぎっしり入っていた。もしかして、おばあちゃんは大どろぼうなの?

「石たちの声がきこえる」(ECA)

マーグリート・ルアーズ/作
ニザール・アリー・バドル/絵 前田 君江/訳
ファラーフ・ラヒーム/アラビア語訳 新日本出版社



「まるできのうのことみたい。」おいしい朝ごはん、おしゃべり、市場で買い物。家族や友だちとみんな自由に笑ってた。

戦争が始まり、まず食べ物がなくなった。平和などどこかに向かって人々は村を離れた。歩いて、歩いて、海を渡って知らない場所へ。石たちが語る平和への願い。

「緑の石食い虫」(JSク)



ベルンハルト・クナーベ/著
ミヒャエル・ミクウス/絵
天沼 春樹/訳 西村書店

ベルンハルトのパパは民族学者だ。パパの集めた標本の棚で「緑の石食い虫、警告、開封厳禁」と書いてあるビニール袋を見つけた。中をのぞくと土の固まりから緑色の虫が顔を出した。パパにないしょで持ち出したこの虫が、街中をおびやかす大事件をひき起こす!!